
息もできない

白虎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
息もできない

【Nコード】
N2948A

【作者名】
白虎

【あらすじ】
この時期、暖房があるとたすかりますね。

「只今より、この車輛は強暖房車となります」

車掌のアナウンスに一同がざわめく。

「何だ？強暖房車って？」

「弱冷房車の逆バージョンみたいなもんじゃねえの？」

「どっちにしる寒かったからいいよ」

今の時間は夜の十一時。この車輛には私を含め、三人しか乗っていない。

時間のせいもあるが、ここは都会と違って相当な田舎なのだ。

そのため、車輛も三輛編成となっている。その中から、私が乗っている二輛目が、強暖房車の対象に選ばれた。

さすがに強暖房車と言うだけあってすぐに暖かくなった。

しかし、それだけで終わらなかった。

温度の上昇が止まらないのだ。

「ちょっと…暑くねえか？」

「確かに、隣の車輛行くか」

そう言つて二人組の男が移動を開始した。

私もさすがに暑さがきつくなり、男二人組とは逆のドアに手を掛けた。

ガキン、ガキン。

「あれ？おかしいな、開かない」

見ると、反対側のドアでもさっきの二人組が私と同じ事をしている。

「何だよこれ、開かねえよ！」

「いいよ、窓開けよう」

そう言つて二人組の片方が窓を開けた。

「ふう、外の寒さが丁度良いくらいだ」

男は気持ちよさそうに窓から首を突き出した。

私も窓を開けようと思い、手を掛けたその時。

ガタンという音と共に、男が首を突き出している窓が物凄い勢いで閉まった。

「うわあああああ！！沢村！沢村あああああつ！！」

その時目の前で起こった事を理解するのに私の頭は必死に働いてい

た。

窓は真っ赤に染まり、男の頭が無い。首の断面からは真っ赤な血が噴水のように吹き出している。

一瞬にして車内は血の臭いで一杯になった。

私は、うっと吐きそうになったが何とか堪えた。

あの男の連れは床一面に広がった血の海を見て放心している。

「この車輛は何なんだ!？」

こうしている内にも車内の温度はどんどん上がって来ている。

このままではまずいと思い、ドアをドンドン叩き隣の車輛の人に助けを求めた。

しかし、何度叩いても一向に気付かない。どんなに強く叩いても何も変わらない。

「何で!?! どうして!?!」

もう何もわからない。そんな気がしてきた時、ふと見るとさっきの男があまりの暑さに気を失ったのだらう、倒れたまま動かなくなっ
てしまっている。

「おい、大丈夫か? しっかりしろ!」

私は声を掛けたが、やはりピクリとも動かない。

血の海の上に倒れている姿は、もう既に死んでしまっているようにも見える。

今の暑さは真夏の陽射しより暑いだろう。それでもまだ温度は上がり続けている。

もう私の意識も朦朧として来た。まともに立ってられない。

そこで私は気を失った。

「終点ー、終点ー、お忘れ物ございませんようお願い致します。」

「うーん、全滅か……」

「これじゃ実用化は無理ですね」

「そうだな、今回のテストは失敗だ。とりあえず、死体だけ片付けておいてくれるか？あと、次回の実験対象も選んでおいてくれ」

「わかりました。一週間後にでも出来るようセッティングしておきます」

「うむ、ではこれで失礼するよ」

「はい、お疲れ様です」

(後書き)

ホラーかな？って感じでホラーにしましたf^_^・期待を裏切った
らごめんなさいm(____)m

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2948a/>

息もできない

2010年10月11日23時33分発行